

中海・宍道湖・大山圏域市長会 地方版総合戦略における施策・主な成果・KPIの達成状況

地方版総合戦略			具体的な施策・事業名 (Do)	主な成果 (Check)	数値目標(KPI)	評価・改善策等 (Action)
4つの柱	中項目	小項目 (Plan)				
①国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成+A5:G20	(1)北東アジアに向けたゲートウェイ機能のさらなる活用	海と空の定期航路(空:米子~ソウル、海:境港~東海~ウラジオストク)の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期貨客船航路就航支援補助金</li> <li>ロシアへの販路拡大支援事業</li> <li>香港向け観光プロモーション、テレビ番組の制作、放送(H28)</li> <li>上海向け現地プロモーション(R1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DBSクルーズフェリーの継続運航(H21.6~R2.11) 2019乗客数約1.5万人 就航以来乗客数約26.8万人、2019コンテナ貨物量330TEU</li> <li>ロシアバイヤーとの商談会:15社参加のうち5社で商談成立(H27)</li> <li>ロシア現地のアンテナショップにおいて圏域商品の販売・観光PRコーナーの設置(H28)</li> <li>米子香港便の新規就航(H28.9) R1年度乗客数約2.9万人 利用率約66%</li> <li>米子ソウル便の増便(週3便→週6便) R1年度乗客数約3.1万人 利用率約66%</li> <li>米子上海便の就航(R2.1) R1年度乗客数1,357人 利用率約48%</li> <li>米子上海便就航に合わせた現地商談会への参加(R1.11)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシアへの販路拡大については鳥取県版プラットフォームに参画。販路拡大への具体策の検討が必要</li> <li>香港、上海への継続的なプロモーションが必要</li> <li>定期貨客船航路の安定運航維持</li> </ul>
		日本海側の物流拠点境港のさらなる整備と一層の利用拡大	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外商談会参加等支援事業</li> <li>境港利用促進懇談会・研修会の開催</li> <li>港湾整備関係要望活動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外商談会参加等支援事業(H27:5件 H28:13件 H29:15件 H30:5件 R1:16件)</li> <li>境港中野地区国際物流ターミナル供用開始(H28.9)</li> <li>定期コンテナ航路週7便化(H31.4)</li> <li>境夢みなとターミナル供用開始(R2.4)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>企業の商談会参加により商談の成立、販路拡大に繋がった</li> <li>境港を利用した輸出入の拡大に繋がる取り組みの検討が必要</li> <li>港湾整備については、引き続き、関係団体と連携した継続的な要望活動が必要</li> </ul>
	(2)圏域企業の海外進出支援のための官民挙げた「インド」進出	ODAを活用した経済協力	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドとの経済交流事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5市長インド・ケララ州訪問による経済交流に関するMOUの締結(H27.12)</li> <li>ODAを活用した経済協力(松江土建(株)、三光(株)、大成工業(株)、(株)アルファ食品)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インドIT等人材の圏域内企業への就職者数:R2に15人(R1目標値 5人)</li> <li>日印間業務提携企業数:R2に2件(R1目標値 1件)</li> <li>インド人留学生インターンシップ受入人数:年14人(H30~)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>H30から交付金を活用し、以前松江市が実施していたものを圏域に拡大</li> <li>これまでのインドケララ州との関係を生かした事業展開がさらに必要</li> </ul>
		松江発のプログラミング言語Rubyを介した、SE人材の育成・確保		<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域内企業への就職者5人(H30)</li> <li>圏域内企業がケララ州企業との業務連携締結1件(H30)</li> <li>留学生インターンシップの実施(H30 7社で14人受入)</li> </ul>		
		インドにおける日本語教育推進への協力		<ul style="list-style-type: none"> <li>インド・ケララ州での日本語教育始動(日本語教員の派遣 H30.9~)</li> </ul>		
	(3)圏域の特徴を活かした企業や研究機関の誘致	安来の特殊鋼技術を活かした金属関連製造業、境港の水産加工業、松江のIT産業、米子の医療、出雲の電子部品をはじめとする製造業、大山の農畜産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域内企業のビジネスマッチングの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域内企業情報データベースの充実 登録企業579社 月平均アクセス数約4万5千件</li> <li>ビジネスマッチングでの商談件数(H27:528件 H28:456件 H29:711件 H30:651件 R1:663件)</li> <li>H29商談成立・成立見込件数86件、受注企業側取引(成約)見込額約1億1,400万円/年</li> <li>H30商談成立・成立見込件数94件、受注企業側取引(成約)見込額約7,800万円/年</li> <li>R1商談成立・成立見込件数120件、受注企業側取引(成約)見込額約7,200万円/年</li> </ul>	圏域内企業の商談件数:年360件	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスマッチング事業により、商談成立、販路拡大に繋がり、圏域内外企業の連携交流が促進</li> </ul>
	(4)インバウンド観光の推進	山陽、四国との広域観光ルートの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国やまなみ街道全線開通に係る山陽、四国方面への観光プロモーション(H28)</li> <li>月刊情報誌「タウン情報広島」によるプロモーション(H29)</li> <li>出雲-広島間ワンコインバスWEBプロモーション</li> <li>台湾現地商談会開催(R1)</li> <li>テレビせとうちパブリシティ番組PR(R1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光入込数:(H27:28,488千人 H28:28,266千人 H29:27,445千人 H30:26,846千人 R1:28,437千人)</li> <li>中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構の設立(H29.7)</li> <li>→(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局の設立(H31.4)</li> <li>→日本版DMOとして正式登録(R1.8)</li> <li>台湾現地商談会参加者:日本側29社 51名 台湾側78社 105名(R1.10)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域への観光客入込数:R2に40,700千人(R1目標値 38,258千人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島-出雲間高速バスのJRバス利用、広島-松江間ワンコインバスの更なる周知など、国内誘客、インバウンド共に、南北軸ルートからの誘客の取組みを進める</li> <li>レンタカーを含む2次交通の環境整備について検討が必要</li> </ul>
			大型クルーズ客船の寄港促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>クルーズ客船寄港時おもてなし事業</li> <li>ボランティアガイドによる観光案内業務</li> <li>岸壁における観光案内ブースの設置</li> </ul>		
		Wi-Fi環境、サイン、免税店、カード対応などの受け入れ基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域インバウンド対策推進事業</li> <li>圏域内観光パンフレットの多言語化(中・韓・タイ・フランス)(H28)</li> <li>国別訪日外国人対応マニュアル作成(H29)</li> <li>AR観光アプリの導入(H29)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人宿泊客数の増加(H27:85,235人 H28:93,543人 H29:117,397人 H30:146,465人 R1:153,705人)</li> <li>ジャパンガイド(掲載1ヵ月) 記事PV数:9,635PV アクセス国:79% 動画再生回数:4,866回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>圏域での外国人宿泊者数:R2に123,000人(R1目標値 115,447人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光案内所をはじめ、業種別の各連絡会を開催し受入環境整備が順調に進んでいる</li> <li>2次交通も含めた受入環境について、山陰DMOと連携した実証事業や観光案内所を対象とした調査分析などにより課題を整理するとともに、業種別連絡会などの仕組みを活用し圏域全体で引き続き整備を図る</li> <li>観光アプリの運用については十分に情報の更新や周知活動に努めた上で、あらためて利用実績に基づく効果の検証が必要</li> </ul>
		オリンピック開催を契機とした欧米向けの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジャパンガイドを活用した圏域観光プロモーション(H29)</li> <li>JNTOグローバルサイトを活用したプロモーション(R1)</li> <li>欧米豪向けWEBプロモーション(R1)</li> <li>英語版フェイスブックページの開設及び運用(R1)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JNTOページ 記事掲載数:3本 PV数:6,022PV 平均ページ滞在時間:03:32</li> <li>フランス向け動画配信(配信1ヵ月)YouTube閲覧数:65,035 Like:5,524 コメント:763</li> <li>フェイスブックページ(月平均)投稿数:11 リーチ数:94,832 いいね:5,059</li> </ul>		

地方版総合戦略			具体的な施策・事業名 (Do)	主な成果 (Check)	数値目標(KPI)	評価・改善策等 (Action)
4つの柱	中項目	小項目 (Plan)				
	(5) 地域資源の発掘		・圏域プロモーションCM作成、中京圏での放送(H28) ・静岡県への観光プロモーション ・仙台への観光プロモーション	・FDA出雲ー仙台、静岡便の新規就航(H30.4) ・FDA出雲ー神戸便の新規就航(R1.10)※R2.3～運休 R1年度乗客数(静岡便)約4.2万人 利用率約69% (仙台便)約3.9万人 利用率約63% (神戸便)約1.1万人 利用率約33%		・静岡、仙台便は就航2年目を迎いずれも乗客数は増加、利用率は微減で推移。継続的なプロモーションが必要
		「山陰いいものマルシェ」の定期開催(JR西日本や圏域経済界と連携、隠れた良いものの発掘～販売促進)	・山陰いいものマルシェの開催 ・圏域外マルシェの開催	・山陰いいものマルシェの開催(3か年で5市で開催) H27～H29: 来場者計101千人、参加店舗延べ351店舗、総売上額約2,600万円 H30: 来場者24千人、参加店舗58店舗、売上額約470万円 H29からマッチング商談会の開催: H29商談件数60件(常設検討、担当取り次ぎほか) H30商談件数90件(催事、試食販売の出店検討ほか) ・圏域外マルシェの開催(H27: 6か所64店舗 H28: 3か所31店舗 H29: 2か所24店舗、売上額約230万円 H30: 1か所14店舗、売上額約239万円 R1: 1か所8店舗、売上額約114万円)	・山陰いいものマルシェ来場者数: 150千人(H27～H29 3年間)	・商談成立による新たな販路開拓など一定の成果が表れているが、今後の事業展開・運営方法の検討が必要 ・地産外消に向けた販路拡大を図る
		神話や歴史、民俗に関する国の研究機関の誘致	未実施	・「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」日本ジオパーク認定(H29.12)		
		高等教育機関との連携	・産学・医工連携事業 ・東京大学との連携	・産官学による医工連携事業の実施(H28～) H29: 医療機器実用化1件 相談件数78件 マッチング件数0件 H30: 医療機器実用化0件 相談件数101件 マッチング件数12件 R1: 医療機器実用化0件 相談件数113件 マッチング件数5件 賛助会員数: 74社 ・東京大学地域未来社会連携研究機構と包括協定を締結(R1)	・医療機器等の実用化件数: 年2件(H30～) ・相談件数: 年100件(H29～) ・研究事業へのマッチング件数: 年5件(H29～)	・医療機器実用化にはある程度時間が必要 ・相談件数、マッチング件数も実績が出ており、実用化に向けて調整中の案件もある中で、一層関係機関との連携が必要 ・推進交付金終了後の自立した体制づくりについても検討が必要
		Iターン、Uターンの推進	・島根大学との若者を共に育てるプロジェクトの実施(H31)	・各市の自治体職員による総合戦略の講義、フィールドワークを実施		・H31年度からの新規事業。各市の総合戦略に基づき圏域5市に出かけフィールドワークを実施 ・各市が連携して行う移住・定住促進活動の検討が必要
	CCRCの検討	未実施				
② 交通ネットワークの充実	(1) 5市を2つの湖を介して結ぶ「8の字ルート」の早期完成	物流拠点境港の利便性向上(RORO船の寄港)	・国内定期航路の開港に向けた試験運行	・RORO船のトライアル輸送の実施(境港流通プラットフォーム協議会 H28～H30)		・協議会を中心に将来的な定期航路化に向けた取り組みが必要
		圏域内外のヒトとモノの移動や流通の一層の利便性向上(中海架橋、米子市～境港間の高速道路などの道路ネットワーク、境港出雲道路、江府三次道路、中国横断自動車道岡山米子線の4車線化などの早期実現)	・米子道ほか道路関係要望活動の実施	・圏域消費地調査の実施(中経連 H29) ・中国横断新幹線(伯備新幹線)中海・宍道湖・大山圏域整備推進会議設立準備会の設立(H30.10) →中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議設立(R1.5)、要望活動(R1.6)、総決起大会の実施(R1.11) ・境港整備に係る要望活動の実施(R1.7～R2.2) ・中国横断自動車道岡山米子線4車線化促進総決起大会、要望活動の実施(R1.11) ・境港出雲道路整備に係る島根県知事要望の実施(R2.3)		・クルーズ客船の寄港等により観光客数は増加。利便性の一層の向上が求められる ・的確な情報把握、両県・関係団体等と連携した要望活動の実施
		圏域の距離と時間の短縮				
③ 住みたくなくる圏域づくり	(1) 自然環境の保全と活用	EVを活用したまちづくり	・EVドライブガイド作成	・急速充電器設備箇所数の増加(H24: 21か所 R1: 67か所)		・急速充電器の設置数が増加し、普及啓発に一定の効果が見られた
		中海・宍道湖・大山を活用した交流人口の拡大	・小学生を対象とした環境体験学習 ・中海・宍道湖レガッタの開催 ・中海・宍道湖水鳥フォトコンテストの開催(H28) ・ラムサール条約登録10周年記念事業(H27) ・ラムサールシンポジウム2016 IN中海・宍道湖の開催(H28)	・子ども探検クルーズ(毎年約100人参加)、スタンプラリー等による交流人口の拡大 ・中海・宍道湖レガッタ(毎年約50クルー参加) ・中海・宍道湖水鳥フォトコンテスト(5市巡回展示、施設等への貸し出し展示に活用) ・ラムサールシンポジウム2016 IN中海・宍道湖(全国からの参加者約200人) ・大山隠岐国立公園がナショナルパーク候補地に選定(H29.7) 国立公園満喫プロジェクトスタート		・圏域内外から参加者があり交流人口の拡大が図られた ・水鳥フォトコンテスト作品の展示、作品を題材にしたノベルティグッズの活用により啓発を図った
④ 住民サービスの向上	(1) 「公共交通の利便性向上」、「人材育成の共同化」、「公共施設の共同利用」の推進		・交通ICカード導入調査事業(H31) ・山陰まんなか未来創造塾開催(官民共同)	・交通系ICカードシステムの導入検討に伴うコンサルティング業務委託、先進地視察(H31) ・山陰まんなか未来創造塾(H28受講者: 31事業所46人 H29受講者: 25事業所41人、H30受講者: 27事業所41人、R1受講者: 19事業者37人)		・交通ICカード導入調査事業はH31年度新規事業 ・山陰まんなか未来創造塾は官民ともに一定の参加者を確保でき、業種や地域を越えた人的ネットワークの構築に寄与